

2016年度

アクションプラン

公益社団法人 栃木県サッカー協会

目 次

公益社団法人栃木県サッカー協会の理念	・ ・	P	1
公益社団法人栃木県サッカー協会のビジョン	・ ・	P	1
公益社団法人栃木県サッカー協会取り組み	・ ・	P	2
2016年度のTFA活動目標	・ ・	P	3
1. 第1種委員会・社会人連盟	・ ・ ・	P	4
2. 第2種委員会・高校連盟	・ ・ ・	P	4
3. 第3種委員会・中学連盟	・ ・ ・	P	5
4. 第4種委員会・少年連盟	・ ・ ・	P	5
5. 女子委員会・女子連盟	・ ・ ・	P	8
6. クラブユース連盟	・ ・ ・	P	8
7. シニア委員会・シニア連盟	・ ・ ・	P	9
8. 技術強化委員会	・ ・ ・	P	9
9. フットサル委員会・フットサル連盟	・ ・ ・	P	10
10. 審判委員会	・ ・ ・	P	11
11. キッズ委員会	・ ・ ・	P	14

公益社団法人栃木県サッカー協会の理念

公益財団法人日本サッカー協会の理念に基づき、栃木県においてサッカーの普及発展、競技力の向上に努め、サッカーを通じて栃木県民の豊かなスポーツ文化の振興及び心身の健全な発達に寄与する。

公益社団法人栃木県サッカー協会のビジョン

1. 栃木県のサッカーの普及に努め、スポーツに親しむ環境を構築し、県民に健康と幸せを与える。
2. 競技力の向上を図り、栃木県代表チーム・選手が日本及び世界で活躍することにより県民に夢と希望を与える。
3. フェアプレーの精神を広め、人々の友好を深め、安全で豊かな社会を構築することに貢献する。

公益社団法人栃木県サッカー協会取り組み(TFAミッションファイル)

《10年後の達成目標(TFAゴールプラン2022)》

目標項目	達成目標	活動内容	現状数値
サッカーファミリーの拡大	サッカーを愛する仲間(サッカーファミリー)のうち、 <u>プレーヤー・審判員・指導者が4万人(県民の2%)</u> になる。	1. 第1種登録チームの選手登録数の拡大 2. U13~18年代の選手登録数の拡大 3. 女子の選手登録数の拡大 4. フットサル選手登録数の拡大	2015年度 サッカー選手登録 17,559人 フットサル登録 469人 審判員 5,078人 指導者 2,268人 計 25,374人 県民人口 1,974,064人 県民の 1.29%
本県代表の活躍	本県代表チームが全国のトップチームとなり、本県出身選手が「 <u>日本代表</u> 」として5名以上、「 <u>Jリーガー</u> 」として20名以上活躍する。	1. 代表チーム強化 2. 選手の強化・育成 3. 指導者の育成	2015年度 日本代表 0人 女子日本代表 3人 Jリーガー 15人
組織の確立	(公社)栃木県サッカー協会が全国及び県民より信頼の得られる組織として確立し、 <u>全国ランキングトップ10入り</u> する。	1. 組織内の連携強化 2. 組織基盤の確立 3. 実施事業の充実	2011年度 全国ランキング 第22位 ※2011以降なし
J1チームの創設・活用	<u>栃木SCがJ1に昇格</u> し、本県選手と県民に夢と活気を与える。	1. 連携・共存体制の確立 2. サポート体制の確立 3. 協同連携事業の実施	2015年度 J2所属栃木SC
サッカー施設の充実	<u>新たなスタジアムの完成</u> と県内の <u>人工芝サッカー場が15面に増加</u> する。	1. 対象自治体への整備要望活動の展開	2015年度 人工芝サッカー場 ・鹿沼市 1面 ・宇都宮市 3面 ・矢板市 1面 ・大田原市 1面 ・那須塩原市 2面 ・日光市 2面 ・佐野市 1面 ・小山市 1面 計 12面
2022年栃木国体での大活躍	栃木国体において「 <u>総合優勝</u> 」する	1. 代表チーム強化 2. 選手の強化・育成 3. 指導者の育成	

2016年度のTFA活動目標

- (1) アクションプランの遂行<各連盟・委員会のプランの遂行>
- (2) サッカーファミリーの拡大
　　<プレーヤー・審判員・指導者登録数を県民の1.5%を目指す>
- (3) 各種別の本県代表チームの活躍
　　<全国大会ベスト8以上、関東大会準優勝以上を目指す>
- (4) 岩手国体でベスト4以上を目指す。
- (5) 仮称「とちぎフットボールセンターの整備構想」の具現化
- (6) J3栃木SC、JFL栃木ウーヴァFCとの連携・協力体制の
　　確立
- (7) サッカー施設の拡充<人工芝サッカー場の1面増設>
- (8) 県内各地区サッカー協会との連携・協力
- (9) 2022年栃木国体「総合優勝」に向けた組織体制の強化
- (10) 財政の健全化<新たな収入源の確保>

1. 第1種委員会：社会人連盟

2016年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内リーグチーム強化 ・ 各種大会の運営及び委員会への出席率の向上 ・ 各委員会の業務細分化(人材育成) ・ Jチーム指導者による登録チーム指導者及び選手に対する指導講習会の実施 ・ 県1部リーグから関東リーグへのチーム昇格 ・ 全国大会の誘致に向けた取り組み ・ トーナメント大会参加チーム数を増やす取り組み ・ 登録チーム数を増やすための取り組み ・ 公式記録作成者の育成 <p><数値目標> 事業及び委員会への出席率をUP(60%へUP) 登録チーム数をUP(2017年度登録時に2チーム増やす)</p> <p><スローガン> チーム社会人(1種)の取り組み</p>
2016年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内大会の活性化 ・ 各委員会(総務・審判・技術・競技)の確立(適数人員) ・ Jチーム・JFLチームとの連携による県内チームの強化 ・ 栃木国体に向け運営レベルアップのために全国大会開催の誘致準備 ・ 新規チーム数を増やすための募集・広報活動 ・ 公式記録作成研修会の実施
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内トーナメント大会 ・ 各委員会メンバーの適正化 ・ J3・JFLとの連携・協力

2. 第2種委員会：高校連盟

2016年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校サッカーの活性化(男女) ・ 高校サッカー部員の増加(男女) ・ 本県代表校の活躍(男女) ・ 栃木県ユースサッカーリーグU-18の活性化 <p><数値目標> 部員数 3,000人 全国大会入賞</p> <p><スローガン> 高校サッカーを盛り上げよう!</p>
2016年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国高校サッカー選手権大会栃木大会 ・ 技術・審判の質の向上 ・ 男子部・女子部の連携強化 ・ 栃木県ユースサッカーリーグU-18の活性化(試合結果速報等) ・ 本県代表の全国大会入賞及び関東プリンスへの参入 ・ 他種別との連携

目標達成に向けて取り組む事業 又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・全国高校サッカー選手権大会栃木大会の更なる活性化 ・技術・審判研修会及び講習会の開催 ・ユースリーグ運営面での整備 ・本県代表の全国大会入賞及び関東プリンスへの参入のための協力体制づくり ・キッズ委員会との連携 ・県総体決勝戦の男女共同開催
--------------------------	--

3. 第3種委員会：中学連盟

2016年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・競技環境の充実 ・指導者の質の向上
	<p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ① U-15リーグに90%以上のチームの参加 ② A級またはB級コーチ1名以上、C級コーチ5名以上 M4による指導者講習会への参加率75%以上
	<p><スローガン></p> <p style="text-align: center;">より良い育成環境を目指して</p>
2016年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・リーグ戦文化の醸成 ・指導者養成事業及び指導者研修 ・3種委員会の組織の充実
目標達成に向けて取り組む事業 又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15リーグ (1部リーグ・2部リーグ・3部リーグ・4部リーグ) ・公認A級、B級および公認C級コーチ養成講習会 ・各地区での指導者講習会

4. 第4種委員会：少年連盟

2016年度の活動目標	<p>【地域】①全日本少年サッカー大会の12月実施に伴う、県内各地区予選及び県大会の選手育成を視点とした効果的な運営</p> <p>②選手育成を視点とした地域リーグの充実</p> <p>③7地区の少年連盟と県少年連盟との意思疎通のためのパイプ役としての業務を円滑に遂行する。</p> <p>【技術】①全日本少年サッカー大会の12月実施に伴う、選手育成を視点とした技術委員会の活動時期・内容変更を検証</p> <p>②関東・全国レベルで通用する選手の育成 ～将来にわたって活躍できる選手の基礎づくり～</p> <p>【審判】①全日本少年サッカー大会の12月実施に伴う、審判員の技術力向上を視点とした審判委員会活動時期・内容変更を検証</p> <p>②スタンダードの確立</p> <p>【広報】①全日本少年サッカー大会の12月実施に伴う、年間事業変更による広報委員会各事業の整備</p> <p>② 正確な情報を迅速に提供する</p>
-------------	--

	<p>【フットサル】</p> <p>①全日本少年サッカー大会の12月実施に伴う、年間事業変更によるフットサル大会の効果的運営</p> <p>②フットサル研修会の積極的開催 審判・ルール・指導・普及等</p> <p>【キッズ】①全日本少年サッカー大会の12月実施に伴う、年間事業変更によるキッズ事業の効果的運営</p> <p>②県・地区技術委員会の中でのキッズからの一貫指導体制の確立</p> <p>③各地区での指導者養成</p> <p>【施設】①全日本少年サッカー大会の12月実施に伴う、年間事業変更による施設委員会の効果的運営</p> <p>【女子】①全日本少年サッカー大会の12月実施に伴う、年間事業変更による女子委員会事業の効果的運営</p> <p>【事業】①全日本少年サッカー大会の12月実施に伴う、年間事業変更による事業委員会の効果的運営</p> <hr/> <p><数値目標></p> <p>【地域】 各種申込書提出締め切り日の厳守</p> <p>【技術】 関東選抜大会ベスト4以上</p> <p>【審判】 少年連盟から2級をつくる</p> <hr/> <p><スローガン></p> <p>【技術】 プレーの質を追求しよう</p> <p>【審判】 基本に忠実に</p> <p>【広報】 正確・迅速</p>
<p>2016年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)</p>	<p>【地域】①全日本少年サッカー大会開催時期移行に伴う年間計画変更による各種事業の効果的運営と検証</p> <p>②各地区リーグ戦・各地区予選大会の円滑な運営</p> <p>③地区トレセンと県トレセンとのパイプ役</p> <p>④各地区から出た意見の県少年連盟への吸い上げ</p> <p>【技術】①全日本少年サッカー大会開催時期移行に伴う年間計画変更による技術委員会各種事業の効果的運営と検証</p> <p>②県トレセン活動の充実 ・トレーニングの質の向上</p> <p>③地区トレセン活動への指導協力</p> <p>④指導者の質の向上 ・全国レベルのゲーム分析 ・本県の課題抽出 ・指導者講習会の設定と積極的参加</p> <p>【審判】①全日本少年サッカー大会開催時期移行に伴う年間計画変更による審判委員会各種事業の効果的運営と検証</p> <p>②各地区ごとの審判研修・実技研修の充実</p> <p>③3級インストラクターの育成</p> <p>④県審判トレセンへの参加</p> <p>⑤県派遣審判への協力</p>

	<p>【広報】 ①全日本少年サッカー大会開催時期移行に伴う年間計画変更による広報委員会各種事業の效果的運営と検証 ②大会運営者・企業との円滑な情報連携</p> <p>【フットサル】 ①全日本少年サッカー大会開催時期移行に伴う年間計画変更によるフットサル委員会各種事業の效果的運営と検証 ②少年サッカー連盟フットサル研修会の開催</p> <p>【キッズ】 ①全日本少年サッカー大会開催時期移行に伴う年間計画変更によるキッズ委員会各種事業の效果的運営と検証 ②県・地区技術委員会との連携</p> <p>【施設】 ①全日本少年サッカー大会開催時期移行に伴う年間計画変更による施設委員会の效果的運営と検証</p> <p>【女子】 ①全日本少年サッカー大会開催時期移行に伴う年間計画変更による女子委員会各種事業の效果的運営と検証</p> <p>【事業】 ①全日本少年サッカー大会の12月実施に伴う、年間事業変更による事業委員会の效果的運営</p>
<p>目標達成に向けて取り組む事業 又は競技会名</p>	<p>【地域】 ①地域委員会の定期的開催（12回開催） ②地域リーグ（前期リーグ・後期リーグ）の運営 ※新人大会の結果を受けた前期リーグの編成 ・前期リーグは、関東大会栃木県大会の予選を兼ねる。 ※前期リーグの結果を受けた後期リーグの編成 ・後期リーグは、全日本大会栃木県大会の予選を兼ねる。 ③トレセンマッチデーへの協力 ④各種県大会の運営 ⑤地区の優秀な選手を漏れなく県に推薦する ⑥他の委員会への協力 ⑦地区の理事会の活性化</p> <p>【技術】 ①地区トレセン活動の活性化 ・トレセンマッチデーから県トレセンへ推薦 ②県大会での優秀選手選出</p> <p>③関東トレセンマッチデー・MTMトレセンマッチ・フットボール・フューチャー・プログラム等での他県の選手のレベル・戦術分析と本県選手のレベルアッププログラムの編纂</p> <p>【審判】 ①県大会への審判派遣 主としてベスト16以上 ②審判研修の定期的開催 ③他連盟審判員との交流 ④技術と審判のすり合わせのための研修会開催 ⑤2級審判員育成のためのエリートプログラムの作成</p> <p>【キッズ】 ①地区開催フェスティバル ②地区開催アカデミー（U-9） ③地区主催キッズリーダー講習会</p> <p>【施設】 ①競技施設に関する渉外 ②競技施設の整備・促進に関する活動</p> <p>【女子】 ①女子選手の育成事業の開催 ②トレセン女子活動の活性化を図る事業</p> <p>【事業】 ①各委員会事業運営協力</p>

5. 女子委員会：女子連盟

2016年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・12～13へのパイプ作り（マッチデー） ・15年代の強化（トレセン強化） ・初心者へのアプローチ（グラスルーツ） ・女子審判の育成 ユース審判の育成 <p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マッチデー5回 4種県トレ女子×U-13女子トレセン ・グラスルーツ2回 矢板地区 小山地区 ・ワンデー2回 U-12経験者対象。県央 ・3級審判の育成 審判トレセン <p><スローガン></p> <p style="text-align: center;">一歩ずつ</p>
2016年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 （*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・4種の県トレ女子と女子13のトレセンマッチを、行う。15年代への、継続へ繋げる事を目的とする。 （4種委員会からの協力を経て実現となった） ・女子登録15のチームのトレセン参加率引き上げと強化 （栃木SCを中心に多くのチームからの参加を募り魅力あるトレセンへとしていく） ・初心者へのアプローチとしてワンデーやグラスルーツを行う。 （ピラの配布など告知に努め、指導者や指導を経験する場とし選手としても幅を広げる） ・国体への参加協力の徹底と大学生の参加確保への協力。 （28年は県リーグの優勝チームを母体に県外選手へ声掛けを行い強化を図る。） ・審判トレセン 高校交流リーグや県リーグをトレセンの場とする。 又、ユース審判の育成に向け各チームの協力を得る。
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・U-13 マッチデー ・グラスルーツ（2回） ・ワンデーサッカークリニック（2回） ・審判トレセン（3回）

6. クラブユース連盟

2016年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・関東リーグへの進出（各年代別強化） ・帯同審判の質の向上 <p><数値目標></p> <p style="text-align: center;">関東大会でのベスト8以上</p> <p><スローガン></p> <p style="text-align: center;">未来を担う選手たちと共に！ （高めあい・競い合い・認め合う）</p>
-------------	---

2016年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15 リーグを含めU-14 の強化 ・リーグ戦・ベスト8までの帯同審判の向上
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・各チームU-14 の強化 ・帯同審判の講習会

7. シニア委員会：シニア連盟

2016年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア連盟の組織化 ・未登録チーム・選手の協会登録強化（各年代） ・全国大会予選会の突破
	<p><数値目標> 各年代（Over40・Over50・Over60・Over70）の全国大会出場</p>
	<p><スローガン> 各年代での関東大会を突破し全国大会出場</p>
2016年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア連盟の組織の強化 ・シニアリーグの活性（各年代40、50、60） ・シニアチームの各年代の関東予選会の突破し全国大会出場を目指す。
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア委員会の各年代及び地域のメンバー選出 ・シニアサッカー選手権大会（0-40、0-50）9月 ・シニアサッカーリーグ（0-40、0-50）5月～2月

8. 技術強化委員会

2016年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・2022 栃木国体+10 年を視野に入れた諸事業のスタート ・トレセン活動のさらなる充実と指導者の関わり ・栃木 TSG(テクニカルスタディグループ)の発足
	<p><数値目標> 関東トレセン大会各種別 A クラス入り</p>
	<p><スローガン> 全県一致</p>
2016年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・国体強化策の具現化 成年男子：栃木 SC 及びウーバの協力 女子：国体チームの強化策の策定 小学年代、中学年代の女子選手の発掘・育成・強化 中学年代の女子対抗戦サポート U11 早生まれ及び U10 地区トレセンの強化（国体世代） ・各種別の指導者の掌握（データベース化） 若い指導者の育成とネットワークの形成 ・テクニカルスタディグループの活用及び指導者への還元 ・若手指導者の養成

目標達成に向けて取り組む事業 又は競技会名	・U-14 海外遠征
--------------------------	------------

9. フットサル委員会：フットサル連盟

2016年度の活動目標	<p>数年前まで、フットサルにおける本県は「関東の後進県」の一つに挙げられていた。しかし男女の栃木県リーグが本格的に始まり、フットサル連盟も順調に動き出したことなどから、フットサル人口が多い首都圏のチームを追従する存在にまではなった。</p> <p>しかしここ数年は、フットサル事業の根幹を成す男女社会人チーム数の登録数の伸び悩みが課題として上がってきている。2015年度も2年連続で微減傾向は続き大会運営にも若干の影響が出た。社会人チームの減少は、本県のフットサル人口の減少に大きく影響してくるため、長中期の重要課題としてフットサルの普及振興をより厚みのあるものとする必要がある。</p> <p>また、近年、アンダーカテゴリー等の大会増加により、元来、少人数で運営をしてきたフットサル委員会・連盟事業の役員数が足りなくなってきた。負担が集中してしまっている役員も生まれてきている。新たな役員を育成し組織としての体力をつける時期に差し掛かってきている。</p>
	<p><数値目標></p> <p>男女一般チーム登録を前年度の25チームから30チームを目標に増加させる</p>
	<p><スローガン></p> <p>再興 栃木のフットサル</p>
2016年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ol style="list-style-type: none"> ①男女栃木県リーグのチーム数増加と安定稼働 ②各年代におけるフットサル大会の安定運営 ③関東大会レベルの公式戦で勝てるチームの育成 ④普及事業の促進 ⑤県内におけるフットサルのPR ⑥審判員の育成 ⑦新規役員の発掘、育成
目標達成に向けて取り組む事業 又は競技会名	<ol style="list-style-type: none"> ①栃木県フットサルリーグ ②全日本フットサル選手権栃木大会 ③全国選抜フットサル大会 ④栃木県女子フットサルリーグ ⑤全日本女子フットサル選手権大会栃木県予選 ⑥全国女子選抜フットサル大会 ⑦年代別各カテゴリーのフットサル大会 ⑧各種普及イベント

10. 審判委員会

<p>2016年度の活動目標</p>	<p>① 各種別・各連盟・各部との連携により審判員・並びに指導者の育成強化を図り、効率の良い指導システムを確立する。(短期)</p> <p>② 審判トレセン、ユース審判員の育成を充実し、審判員の技術、知識、体力、パーソナリティの向上を目標に新たな強化審判員を輩出させる。それに伴ったカリキュラムを企画する。(短、中期)</p> <p>③ 日本、関東に通じる審判員を育成強化し、県独自(トップレフリースエミナーⅡなど)の審判指導体制、育成システムを構築させる。(長期)</p> <p>④ WEB登録を周知徹底させ、ホームページの活用から取得講習会並びに更新講習会を充実させる。(短期)</p> <p>⑤ KickOff システムの有効利用。KickOff システムの有効性を十分に引き出して利用する。(割当、レポートの報告)</p> <hr/> <p><数値目標></p> <p>審判員登録数を1級 7名、2級 60名、3級 500名 4級 5000名、フットサル 700名、女子 10名を 目標に育成する。(中期、長期)</p> <hr/> <p><スローガン></p> <p>THE CHALLENGE TO REFEREE FRIEND 'S DREAM (審判仲間の夢への挑戦)</p>
<p>2016年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)</p>	<p>(1種)</p> <p>①2級審判員1名、3級インストラクター1名の輩出。候補者の選出と受験時期を見据えた育成をする。</p> <p>②中堅審判員研修会の充実。 35歳以上&3級取得後5年以上の審判員を対象に実技研修会を実施して技術向上を図る</p> <p>③3級審判員を増やす。 他種別との連携も踏まえ、1種の大会の審判が出来る人数を増やす。</p> <p>(2種) ユース審判員の研修会を実施する。</p> <p>(3種)</p> <p>①審判員の養成。具体的には、2級以上の審判員を栃木県の各地域に確保し、地域の審判強化の中心として活躍できるようにする。</p> <p>②3種審判講習会の充実。具体的には、現状として、年に2回行われている講習会の充実を図る。</p> <p>(4種)</p> <p>①各地区で、審判研修及び実技研修を実施する。</p> <p>②県大会の初日から派遣審判員を各会場に派遣する。</p> <p>③第4種所属の3級審判員に対する研修会の実施。</p> <p>④各地区の派遣審判員を対象とした研修会を開く。</p> <p>⑤県大会、関東大会等へのユース審判員の派遣を積極的に行っていく。</p>

(女子)

県リーグ女子のみのレフリングを10試合目標とする。3級昇格者を2名増やし競う形での公式戦レフリングを決定したい。県リーグにおいては審判証の提示を支持し確認実施ノート捺印を行う。

(シニア)

- ① 各チームに、審判資格取得者を4名以上確保する。
- ② シニアの各カテゴリー(0-40から0-70まで)において、最新のルールを正しく理解させ、年1回以上研修会を行う。

(クラブ)

- ① 2級審判員を1名昇格させる。
- ② 2級を目指す若手・中堅3級審判員を育成する。
- ③ 3級インストラクターを1名増員する。
- ④ 3級審判員を1名以上昇格させる。
- ⑤ 県派遣審判員への参加者を1名以上増やす。
- ⑥ 県審判トレセンの参加者を1名以上増やす。

(フットサル)

- ① フットサル審判員の資質向上と若手・女性審判員の確保・育成する。
- ② 上級昇格希望者の確保し、支援する。
- ③ 各級審判の継続的活動に対する支援する。

(指導・育成・インストラクター)

- ① 12回の審判トレセンを実施する。
- ② 3級審判員フォローアップ研修会を実施する。
- ③ 2級・3級審判員を強化、増員する。(関東強化4名を目標)
- ④ インストラクターを増員(SI2:5名、SI3:20名)する。
- ⑤ 審判トレセンを充実させ、上級審判員を誕生させる。
(審判育成システムを工夫し審判カルテの導入、各級に応じた指導体制の確立、ユース審判員、女子審判員の普及育成を図り発掘する。)

- ⑥ トップレフリーセミナーを開講し、上位の審判員を強化する。

①～⑥の目標は次年度もさらに充実させて実践していく。

- ・ 審判トレセンは、内容も含めてさらに充実させていく。例えば審判員やインストラクターに順番でプレゼンテーションを担当させていくなど。
- ・ 例年6月末頃行っている那須スポーツパークでの関東クラブユースの大会を、審判員とインストラクター合同の研修会として位置付ける。
- ・ 3級昇格審査の持ち方や基準を検討していく。
- ・ ユース審判員、女子審判員の発掘する。

	<p>(競技部)</p> <p>①kickoffサイトの有効利用 関東主催大会に派遣する審判員を各カテゴリー毎に選出・登録し、kickoffに登録して審判割当を実施する。同様に、県内の主大会についてもkickoffを活用する。</p> <p>②各種別の連携強化 種別の垣根を越えて協力し、様々な種別に派遣することで審判員のレベルアップに貢献する。</p>
<p>目標達成に向けて取り組む事業 又は競技会名</p>	<p>(1種)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県社会人リーグや知事杯など、社会人連盟が主催する大会を使用して実施する。 ・ 1種主催の研修会を開催する。 <p>(2種)</p> <p>ユース審判員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レフェリースクールを計画し、県内高校生を指導する。 ・ 4級審判員取得講習会をインターハイ県予選決勝戦時に実施する。 ・ 各予選会にユース審判員を割当をする。 ・ 全日本少年サッカー大会へ派遣する。 <p>(3種)</p> <p><研修会実施時期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10月・・・中学校県新人戦の最終日、準決勝と決勝の時、同時に実施。 ・ 2月・・・下野杯中学生サッカー大会の準々決勝の日、4試合で実施 <p>講習内容は、ルール解説、試合観戦（割り当て者もいる）、質疑応答、技術トレーニング。これらの、内容を、更に充実させると共に、情報交換の場としてネットワークを密にする。</p> <p><講習会における目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 審判として、「為すべきこと」を確認する機会とする。 ・ 県内各地、現場で審判に関する内容の疑問や質問等をすくいあげる場とする。 ・ 審判委員の資質を大きく秘めている者を発掘する、機会とする。 ・ 「仲間意識」を確認して、サッカーの魅力を再確認できる、機会とする。 <p>(4種)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①各地区とも派遣審判員を、経験や実力より2つのカテゴリーに振り分けする。各地区の委員長会議の開催する。 ②上級審判員、インストラクターを育成する。 ③ユース審判員に対する活躍の場を提供していく。 <p>(女子)</p> <p>3級昇格者目標2名、関東派県1名追加、県リーグインストを継続し、入る環境・育つ環境・上から目線の育成をおこなわず、はぐくむかたちで育成していく。</p>

	<p>(シニア)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審判の取得・更新を通知で啓発する。 <p>(クラブ)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①全日本クラブユースサッカー選手権（U-15）大会栃木県予選 ②高円宮杯日本クラブユースサッカー選手権（U-15）大会栃木県大会 ③下野杯争奪県下中学生サッカー選手権大会 ④県派遣試合（県社会人・U-18等） <p>において審判員を発掘する。</p> <p>(フットサル)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①県リーグ担当審判の資質向上を目的とした情報提供（随時）、競技規則確認レポートの配布（月1回）、実技等研修会の開催（3回）、若手、女性審判の確保に向けた啓発活動（U-12審判講習会の開催：3回）をする。 ②1～3級審判昇格者各1名。3級昇格審査会2回行う。 ③継続的な審判活動を支援する。（3、4級更新講習会2回。2級、3級インストラクター更新講習会1回） <p>(指導・育成・インストラクター)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①各カテゴリー、各種別において研修等を充実していくとともに種別間の垣根を少しずつ取り払い、審判員の交流を図っていく。 ②年間100試合のアセスメント、インストラクター部員全員がアセスメント業務を実施する。アセスメント対応する審判員を増やす。 ③年2回のインストラクター研修会を実施し資質向上をする。 ④年2回以上の女子トレセンを実施する。 ⑤国際交流プログラムを検討し、技術委員会と連携を図りながら帯同で派遣する機会を設ける。
--	---

11. キッズ委員会

<p>2016年度の活動目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回指導の拡大と受益者負担への働きかけ ・地区フェスティバルの内容の充実（年2回以上） ・JFAフェスティバルの地区開催 ・キッズリーダー講習会の地区開催 ・キッズの重要性を発信する講習会・研修会の開催 ・4種指導者に向けての研修会開催 <p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち延べ20,000人との交流 ・キッズリーダー講習会の開催（10コース、200名） ・キッズの重要性を発信する講習会・研修会の開催（2回以上）
--------------------	---

	<p><スローガン></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キッズから栃木のサッカーを変えていこう ・ 栃木をキッズ王国に
<p>2016年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巡回指導 150回 (実質80園・小学校30校) ・ JFAフェスティバルの内容の検討 ・ 各地区フェスティバルの年2回以上開催 ・ フェスティバルの内容の充実 (チームの対抗戦だけにならない、研修会を兼ねる、みんなで遊ぶ等) ・ JFAグラスルーツフェスティバルの地区開催 ・ キッズリーダー講習会の地区開催 ・ 他種別との交流事業の拡大
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栃木SCスマイルキャラバン ・ 栃木県サッカー協会キッズプログラム巡回指導 ・ 地区主催キッズサッカーフェスティバル ・ JFAキッズサッカーフェスティバル ・ JFAグラスルーツフェスティバル ・ キッズリーダー養成講習会